

「日新館のヤマボウシ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



「ヤマボウシ」*Cornus kousa* はミズキ科の落葉樹で、特に珍しい植物ではない。漢字では「山法師」とも「山帽子」とも書くが、恐らく「山法師」が正しいだろう。初夏にハナミズキ(別名「アメリカヤマボウシ」)に似た白い花をつけ、どちらかという花を觀賞するために庭に植えられる樹木である。初秋(9~10月)に実をつけ、写真のように独特の模様なので、子どもたちの目をひいたのだろう。



表面には面白い文様がある。一つの文様到一个の種子と思えそうだが、実際は2~3個の種子しか入っていないことが多い。一応食用にもなる。私は一度食べてみたことがある。見た目はみずみずしい印象だが、実際はちょっとジャリジャリした食感で、決しておいしいものではない。しかし香りは芳醇で、果実酒の材料にもなるらしい。「山法師酒」とは名称だけでも、何かしらの靈験がありそうな気がする。



日新館では、弓道、赤べこ絵付けなどさまざまな体験ができる。今回は「座禅体験」をした。板の間に独特の座り方をして瞑想する。時々警策(きょうさく)も飛んだが、右肩1回だったので、この方は曹洞宗の僧だろう。臨済宗では2回~4回叩く。もちろん、子どもの体験座禅なので警策は「希望策」だった。



日新館の体験も新鮮だったが、門前から眺める会津盆地の景観もまた素晴らしい。白虎隊の青年士たちもこの風景を毎日見ていたのだろう。



食事は日新館下の食堂でいただいた。会津名物の「会津わっぱめし」である。からあげ、フルーツ、ヤクルトまでついていて、子どもたちは大喜びだった。